

## 災害を通じた民宿街の継続と転換に関する研究

### Continuation and conversion of Minshuku regions through disaster

○真田さくら<sup>1</sup>, 井本佐保里<sup>2</sup>  
\*Sakura Sanada<sup>1</sup>, Saori Imoto<sup>2</sup>

Abstract: The aim of this research is to clarify the change of space going through Typhoon No.15 and COVID-19, and to consider the role of Minshuku in area through disasters. We conducted survey to 2 Minshuku in Tomiyama area, Minamiboso-city. Previously, Minshuku in this area mainly accepted educational programs such as summer schools. However, because of changes of needs and also because of two disasters, Minshuku shifted to deal with not only with accommodations but also with the new needs such as temporary stay and individual visitors.

#### 1. 背景と目的

近年、毎年のように自然災害が全国各地で発生している。その度に人々は生活や空間を変化させながら暮らしてきた。本研究では2019年台風15号および2020年新型コロナウイルス感染症拡大(以後COVID-19)という大きな災害を経験した南房総市富山地区の民宿を対象とし、両災害を経た民宿の空間変化について明らかにした上で、災害を通して民宿が地域の中で果たす役割を考察することを目的とする。

#### 2. 調査概要

##### 2.1 調査対象地

千葉県南房総市富山地区は、明治時代に海水浴客の受け入れから始まり、昭和に会社の保養所としての利用を経て、近年では教育旅行や大学合宿を中心に受け入れを行なっている。観光協会のホームページ<sup>[1]</sup>に記載されている富山地区の民宿は55軒で、ホールや体育館を持つ大規模な民宿が多いのが特徴である。宿泊入込者数は学校の長期休みである3月と8月にピークを迎える。

##### 2.2 調査の方法

同地区に立地する民宿2軒に対し、2019年台風15号および2020年COVID-19を経た空間変化についてインタビュー調査を行なった。(2020年10月)

#### 3. 被害概要

2019年台風15号は、2019年9月9日5時頃千葉市付近に上陸し甚大な被害をもたらした。Table 1に南房総市の罹災証明発行枚数<sup>[2]</sup>を示す。

Table 1. Number of disaster certificates

|                           | Ruined | Large-scale half- | Half-ruined | Partly ruined |
|---------------------------|--------|-------------------|-------------|---------------|
| Dwelling                  | 123    | 140               | 852         | 5,621         |
| Non-residential buildings | 319    | 67                | 366         | 1,757         |
| Amount                    | 442    | 207               | 1,218       | 7,378         |

Figure 1に2018年9月から2020年8月までの南房総市富山地区での宿泊入込者数の変化<sup>[3]</sup>を示す。台風15号直後の10月と11月を比較すると、大きな変化がない。これは、元々宿泊客が少ない時期であったことに加え、被災した民宿も台風後間もなく営業を再開していたからだと考えられる。一方、2020年4月から宿泊者数が急減している。これはCOVID-19の影響であり、各種教育施設の臨海学校や合宿などがキャンセルされたことが大きく影響していると考えられる。

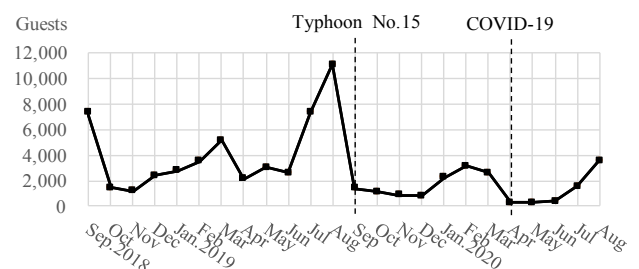


Figure 1. Changes in paying guests

#### 4. 台風15号およびCOVID-19を通じた空間変化

##### 4.1 民宿Aの場合

###### ア. 民宿の概要

本館・ホール棟・はなれ棟・別館の4棟で構成される。元々団体客の受け入れが多かったが、約3年前、プライバシーを保ちながら宿泊したいというニーズが高まっているを受け、各部屋に浴室とキッチン

設置した経緯を持つ。

イ. 台風15号での変化

台風15号ではFigure 2に示すように屋根瓦が落下する等の被害を受け、停電は3日間続いた。しかし周辺と比べ早い時期に電気が復旧したので、15日間風呂と電気を地域住民に無料で提供。更に、ホールを支援物資置き場として提供した。台風から約1ヶ月後、ホール棟・はなれ棟・別館の被害がなかった範囲に団体客を受け入れる形で営業を再開。台風から2ヶ月後に修繕を始め、2階客室を吹き抜けに改修しステージを設けた。

ウ. COVID-19での変化

2月下旬から影響が出始め4月20日に臨時休業とした。6月3日に営業再開し、時間貸し(ワークスペースとしての利用)やランチ営業を開始。間取りの変化は無いが、一棟貸しを行うなど空間の使い方は変化した。

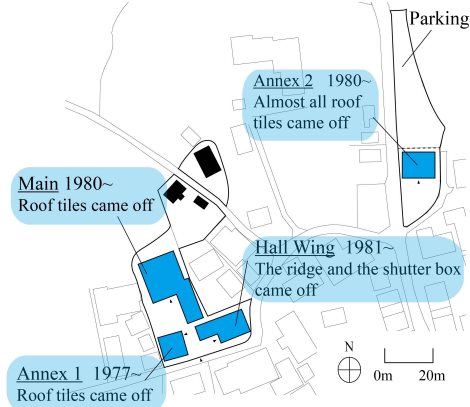


Figure 2. Damaged situation

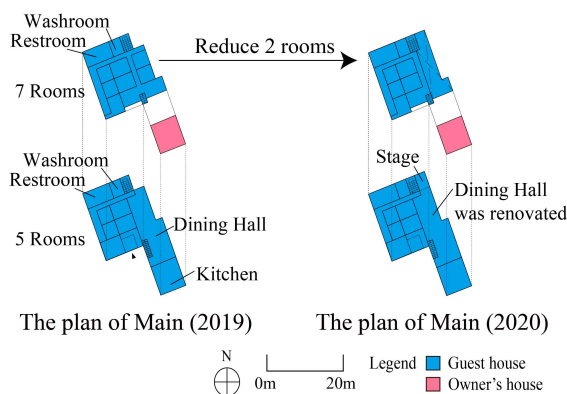


Figure 3. Change of spaces

4. 2 民宿Bの場合

ア. 民宿の概要

宿泊棟4棟、食堂棟、風呂場棟で構成される。戦前は保養所、戦時中は疎開先として家族客へ貸出をしていた。団体客用に風呂場や食堂が大きく作られているため、少人数客の受け入れがしにくいこともあり、近年も団体客の受け入れを中心に行っている。

イ. 台風15号での変化

台風15号ではFigure 4のように屋根の被害を受け、停電は7日間続いた。雨漏りのため約4ヶ月間宿泊客を受け入れることが出来なかった。台風被害の修繕は、地元の工業者に依頼したいと考えていたため時間がかかり、約10ヶ月後に完了した。間取りについては、修繕による変化はなかったが、今後2階建から平屋に建て替える予定である。

ウ. COVID-19での変化

2月中旬頃頃から影響が出始め、8月まで宿泊客はいなかった。8月に観光協会からの依頼で、家族客を受け入れた。少人数で大きな建物を使えたことで好評だったが、大浴場の運用を考えると難しい。今後も教育旅行や団体客の受け入れにこだわりたいと考えている。

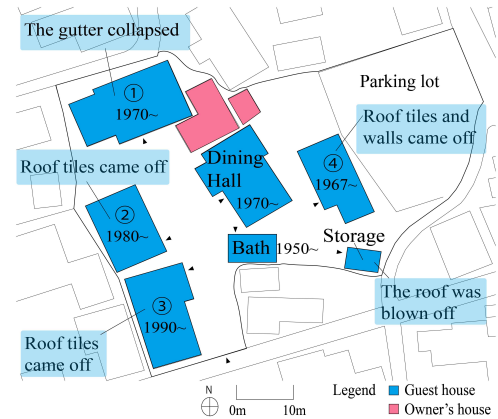


Figure 4. Damaged situation

5. まとめ

南房総市富山地区は、これまで教育旅行(団体客)を主に受け入れていたが、2019年台風15号および2020年COVID-19を通してそのあり方に変化が起こることがわかった。特に民宿は観光客の宿泊場所としての用途だけではなく、時間貸しなど新たなニーズを受け入れようとしていることは注目に値する。空間を変化させながら新たな客層を受け入れることが出来れば、民宿が観光拠点となり地域活性化にも繋がるだろう。今後は、他の民宿の事例も加えながら分析を進めていき、建物形式や受入客層から空間変化の傾向を考察する予定である。

6. 参考文献

- [1] 一般社団法人南房総市観光協会「会員について」  
<https://www.cm-boso.com/member.html> (2020/10/19 閲覧)
- [2] 南房総市役所から提供 (2020.10.01 時点)
- [3] 南房総市観光協会から提供 (尚、9月と12月については回答宿数が大きく異なるため信憑性にかける.)